

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月28日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.60】

警察無線を傍受し武器も製造！革マルの危険性を認識しよう！

今号では、革マル派の高度な違法調査活動について検証したい。既出の革マル派を特集した広報誌「焦点」(258号)では、「警察無線の傍受、盗用による各種調査活動」として、同派の非合法的な調査活動の実態について、次の通り記載している(p.14)。

平成10年4月、警察は、千葉県浦安市内において、革マル派の非公然アジト「浦安アジト」を摘発しました。このアジトには、警察無線を傍受するための無線機12台、再生機(暗号解読機)11台及び録音機20台が設置されていたほか、無線の内容を録音したカセットテープ約5,000本や多数の資料が隠されていました。無線機のアンテナは、一見分からないようにベランダに置いてある植木のつるを絡ませるなどの偽装を施し、設置されていました。このアジトで、同派女性活動家が、日夜、警察無線を傍受していたのです。革マル派は、警察無線を傍受することにより、警察の諸活動をくぐり抜けながら、警察や対立する団体、個人等に対する非合法手段による調査活動を組織的に行っていたものとみられます。

西岡研介著「マンガローブ」(講談社)では、この件について「警察デジタル無線まで傍受」との見出しで、以下のようにさらに詳しく解説している(p.234)。

「-(前略)-革マル派は、浦安市内の同じマンションの8階と11階にアジトを持っていたが、11階の部屋に踏み込んだときには、まさに6人の女性活動家がデジタル無線を傍受している最中だった。彼女らは無線傍受を担当する専門要員で、彼女らがヘッドホンをかけ、再生機や録音機を操作している姿を見て、技官は言葉を失っていた」(警察当局関係者)。警察庁情報通信局が「傍受されるわけがない」と言い張ったのもむりはない。デジタル無線は警察庁が威信をかけて開発した「世界でも屈指の傍受困難な通信手段」だったからだ。

そして同書は、こうした高度な調査活動を、50名以上の非公然活動家で構成される革マル派「情報調査部」が手掛けている実態についても記載している(p.236)。

革マルアジトから「JR東海経営陣は辞任せよ！」との模造紙も発見！

革マル派の高度な調査能力と執念には驚くばかりだ。このほか、前出「焦点」では、「武器製造非公然アジト『厚木アジト』の実態」として、1998年11月に摘発した同アジトで、旋盤機、万力等の大型工作機械のほか、約150本の鉄パイプ、約60本の鉄棒入り竹刀、防護用小手、サバイバルナイフ、なた、まきびし等の凶器等が隠されており、これらが内ゲバ事件で押収された凶器に類似していることを紹介し、「革マル派は、今もなお、こうした凶器を製造、保管しており、同派の本質は何ら変わっていないことが判明したわけです」と分析している(p.18)。今日の日本で、違法な調査活動や武器製造を続ける非合法組織が存在する事実を認識し、私たちは、国の治安問題として毅然と対処しなければならない。

厚木アジトでは「社員をナメルナ JR東海経営陣は辞任せよ！」と書かれた模造紙が発見されたが、これは革マル派がJR労働運動に深く関与している何よりの証拠だ。前述のJR東日本松田相談役が受けた家族への嫌がらせやJR東海葛西会長への奇怪な攻撃(No.42参照)について、同派の関与を疑わざるを得ない理由がお分かりいただけるだろう。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>